



# 2月園だより

令和5年2月1日  
目黒区立大岡山保育園 園長

立春を迎える頃となりました。まだまだ冷たい空気の中で緑道の赤い実や水仙などが静かにも凜とたたずむ姿に視線が止まります。それは寒空の中でも子どもたちがのびやかにたくましく遊ぶ姿と重なりあいます。寒さが厳しい中でも気持ちが潤い、元気や活気をもらえる環境に嬉しさを感じます。

1歳児クラスの子どもが、園庭のプランターの中を何やら覗いています。保育士が「何かあったのかな」と尋ねると、「あー」と言いながら土の塊を手渡してくれました。見ると霜柱でした。「冷たいね」と伝えると、「つめたい」と復唱します。保育士がプランターの霜柱を改めて手に取り、2人の子に見せながら「霜柱だね」と伝えると、子どもたちは指先で触って確かめてから自分の手につかみ取り、ぎゅっと握りつぶします。手の中の氷がなくなると、今度は子どもたちがプランターの霜を手に取り、再度握りつぶすことを試していました。身近な冬の自然事象をクラスの保育士と子どもたちがゆったりとした時間の中で、色や形、冷たさを感じたり、手を加えると形が変わるということを体験できたりした格好の学びの機会と感じたエピソードでした。

先月に引き続き、後期のクラス懇談会を予定しております。子どもたちの成長や子育てのアイデアなどを共有できる有意義な会にしたいと思っておりますので、ご出席のほどよろしくお願いいたします。

## 今月の予定

節分

0歳懇談会

4歳懇談会

3歳懇談会

2歳懇談会

1歳懇談会

身体計測・避難訓練



## 3月の予定

卒園お祝い会 5歳児

クラス移動日

お別れ会

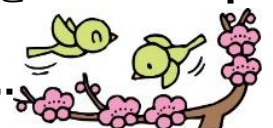
お別れ遠足 3・4・5歳児



## 子どもたちとの関わり ～用務編～

### 『 毎日の姿を通して 』

子どもたちが眠るコットを敷いたり片付けたりすることも用務の仕事です。金曜日は片付けだけではなく、幼児クラスのシーツを外すこともします。さくらんぼ組を手伝っていると「やってー」という声があちこちであがります。「自分ができるところまでやってみてごらん」と声をかけると子どもたちはコットのシーツを外そうとします。自分ができるところまでやろうとする気持ちを後押しするような声をかけながら、順番に一人ずつ手伝っています。最後にバックに入れやすいようシーツを小さく巻く時に「くーるくる」と歌いながら一緒にやっていると、子どもたちも「のり巻き、できた」と嬉しそうに見せてくれるので、こちらまでほほえんでしまいます。さくらんぼ組になりたての春のころは全部を大人が手伝っていましたが、この頃はスナップボタンを外すなど手伝わなくても自分で出来ることが増えていて、感動しています。毎日関わることで見えてくる成長の姿に嬉しさを感じ、次はどのような成長を見せてくれるのかと楽しみにしています。





## こんな遊びに夢中になっています

### 0歳児（いちご組）

ままごとコーナーでクマの人形にご飯を食べさせてあげたあと、保育士に布を持ってきて「だっこー」と抱っこをしてお散歩に行きたいことを伝えてくれます。クマの人形を抱っこし、手にはバッグ、スカートを履き、フープに足を入れて、準備完了です。保育士が「どこへいこうか」と聞くと少し考え「こーえん」と保育士の前を張り切って歩き、お部屋の真ん中のトンネルの周りをぐるぐるお散歩です。他の保育士の前を通る時には「ばっばーい」と嬉しそうに手を振ります。しばらくお散歩をしたら、元のままごとコーナーに戻ってきてお布団の上に人形を置き、一息つく姿がまるでお父さんやお母さんのようでほほえましいです。

少しずつ身近な生活を再現しようとする姿が出てきて、遊びが広がってきています。今やりたいことや楽しい気持ちをくみとり応えながら、やりとりを楽しめるようにしていきます。



### 3歳児（さくらんぼ組）

さくらんぼ組では折り紙が人気です。はじめは魚や犬、ウサギなどを保育士と一緒に折っていましたが、何度も折っているうちに自分で作り上げる子も増えてきました。ある日2、3人がそれぞれ魚を折り終わると目や鼻、口を描き足し、自分がイメージした魚を作っていました。魚ができると次は白い紙に折ったものを貼り、背景の色を塗って楽しんでいます。半分までピンクに塗っていた子が「色を変えよう」と色を変えました。「じゃあ、私も色をかえるね」と、隣の子も次々にペンを変えカラフルになっていきます。「それ、虹みたいだね」と見ていた子が言う「うん虹だよ」と1つの絵のような作品ができあがっていきました。友達と話しながら見せ合ったり真似をしたりしながら作ることが刺激となり、「こうしたら面白そう」とさらにイメージを広げ合っています。

友達同士のやりとりを楽しめるようにしながら、子どもたちがやってみたい気持ちが満たされる環境を整え、次々遊びが展開されるようにしていきたいと思っています。



### 5歳児（ぶどう組）

12月上旬に将棋を出しました。はじめは保育士と対戦しながらルールを覚えてきましたが、最近では「一緒に将棋やろう」と友達を誘い遊んでいます。「うーん、ここにやると取られちゃうし。あっ、こっちだ」などと考えながら駒を進めています。盛り上がってくると周りに子どもたちも集まり、勝負を見守り始めます。見守りながらも「あっ、ここやると逃げられるよ」「ここに『角』を置くとこういけるから、いいと思うよ」などとしている友達からアドバイスが出てきます。時には「言わないで」と勝負したい思いを伝える姿もありますが、アドバイスから“その手があったか”と気が付くこともあります。周りで見ている友達も、勝負している二人を応援しながら、同じように一緒に考えみんなで楽しんでいます。決着がつくと「将棋はむずかしいなあ」と言う言葉から、難しさが楽しさになっているのを感じます。

先の手を考えながら進めるようなゲームの楽しさを友達と一緒に味わう中で、発見しあったり考えあったりする経験を大事にしていきたいと思っています。

